

地域林政対談 イン 大分西部

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十六弾は、日田市の原田啓介市長、九重町の田野康志町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



日田市のスギ林



九重町の木造こども園

（民有林を巡る情勢）

日田市長 民有林の適切な管理が課題となつていますが、公有化してまとめていくことも必要ではないか。
九州森林管理局長 新しい森林環境税を自治体の独自財源として、森林所有者の意向調査など公有林化への財源とすることも考えられる。

日田市長 そのような取組をしていかないと民有林の適切な管理は無理と考える。

九重町長 山を巡る状況は、以前とは違つてきている。造林経費が公的に代替される分収方式の水源林造成事業であっても、なかなか希望する手が挙がらないようだ。

局長 水源林造成事業もいわば公有林化の一形態であるが、森林所有者の理解があつて分収契約を結ぶこととなるので、森林所有者による山づくりへの理解が必要となつてくる。



原田啓介 日田市長

（これからの森林整備の方向性）

日田市長 水源林の樹種は、スギやヒノキの単一樹種でよいのだろうか。樹種の多様化が必要と考えるが、スギ・ヒノキ林は生産計画が立てられているフィールドであり、民有林がほとんどを占める当地域では多様化もままならない。一方で、新しい「山業（やまぎょう）」の可能性は広い。公有林を利用して実験的に「山業」をデザインしていくことができないか。

局長 森林環境税の考え方は、市町村による公有林化・適切な管理と、業としてやっていくところは集約的に投資していく仕組みづくりとを併行して検討

しているところ。

日田市長 森林には観光資源としての面もある。トレッキングのように森林を通過するだけでもいい。レクリエーションの形態としてはいろいろあつていい。林道整備とからめて推進していけるとよいのではないか。

大分県西部振興局 多様な森づくりを推進していく上で、エリートツリーや苗木の育成も重要となつていく。

局長 九州森林管理局の森林技術・支援センターで生育状況の調査に取り組んでいる。苗木の選択は、森林所有者にとっては慎重になるところであり、リスクのあるところは国有林をフィールドとして試験を進めていく意義がある。

九重町長 コンテナ苗の植え付けは現実性はあるのか。

局長 植栽時期の幅を広げることができ、伐採と造林の一貫作業ということで、伐採など生産作業に使用した重機を活用して地拵えをしたり、フォワーダで苗木を運んだりすることもできる。

（将来を見据えた森林づくり）

日田市長 30〜40年後は、人口が絶対的に減少していることが予想される。30年後にどのような木材を伐るか、そのとき、社会・人口はどうなつていくのか、労働力はどうなのか。そのあたりを適切に判断して、そのときに売れるものを今から作っていく必要がある。建築材だけでなく、戦略的な商品開発も指向していくべきではないか。チャンチンモドキやユリノキが、例えば漢方薬の材料として使えたりしないか。

大分県西部振興局 せっかく植栽したエリートツリーを木質バイオマスで燃やすようなことにならないように、商品開発も進めていくことも必要。

局長 チャンチンモドキといった早生樹種については、20〜30年での現金化を見据えたものであり、施業体系の確立などに取り組んでいくべきものと考えている。

日田市長 人口減少も考え合わせると、地拵えといった作業はもうできないのではないかと。大分県西部振興局 草刈り機械の下刈りへの活用も考えられるところ。

局長 造林作業の機械化も進めている。

大分県西部振興局 機械化は、従事者に高齢者、女性もいる林業では特に求められるところである。

日田市長 業として回る場所では民間がしつかりやっけていく必要がある。実験的な取組は公共で行い、突っ込んだ投資は回収していくことが肝要。公有林化は、新しい商品を産み出す資産をつくっていくための投資として考えていくべきだろう。



日野康志 九重町長

（木材利用の推進）

九重町長 学校林の木材や地元で産出される珪藻土を使って、幼稚園などの公共施設を建設している。

日田市長 日田駅前の再整備も考えているが、ウッドデッキ、エクステリアの展示を考えた。木材の輸出も見据えるべき。

大分県西部振興局 アメリカンレッドシダーはスギの赤身材が代替可能。

日田市長 中津港から木材を輸出していくべき。そのようなことを北部九州全体で考えていくべき。

大分県西部振興局 中津日田道路の整備が重要である。

日田市長 当地域では、スギ大径材をどのように利用していくかが課題となっており、アメリカに視察

に行ってはどうかと考えている。

大分県西部振興局 当地域の産業として脚物といった家具工業があるほか、家具の一大産地である福岡県の大川地域への木材供給基地ともなっている。国有林には、広葉樹の施業体系や、後々手間がかからないような施業方法などの実験研究が期待される。

局長 メンテナンスフリーや早期換金といった視点が重要。また、広葉樹資源も世界的には不足している。

（国有林と市町村の連携の強化）

九重町長 新たなことに取り組んでいくきっかけを、どこかで誰かが何かのあたりで作っていく必要がある。

局長 特別会計から一般会計に移行し、国有林としても、事業の実行を通じて民間にいかにも成果を還元できるか、市町村のお役に立てるかが課題であり、森林技術指導官や地域林政調整官を森林管理署に配置しているところ。

日田市長 森林に存在する莫大な資産をどう金に換えていくか。そのためにどう投資していくか。循環をつなげるパーツが必要。日田市に立地したバイオマス発電所もそのようなパーツの1つである。

局長 そのような循環を地域にどのように形成・実現していくかを国有林としてもしつかり考えていきたい。国有林は何でもできる可能性を持っており、また、そういうやり方を通じて地域に貢献していきたい。

九重町長 国有林は、普段から森林の巡視等がされている。その際に、例えば、民有林での林地開発の情報把握が把握されて町に提供していただけたらするとすれば大変ありがたい。

局長 国有林と地元自治体との間で、協定を締結して森林に関する情報を交換しあうなどの協力体制を構築していきたい。

日田市長・九重町長 是非よろしく願います。

地域林政対談 イン 大分西部

平成29年7月27日(木) 15:00～16:30

日田市役所会議室

出席者(敬称略)

○日田市

原田 啓介 市長
江崎 五郎 農林振興部長
橋本 哲治 林業振興課長

○九重町

日野 康志 町長
小幡 靖彦 農林課長

○大分県西部振興局

河野 智久 農山村振興部長
末光 良一 課長補佐

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行 九州森林管理局長
益田 健太 大分西部森林管理署長
勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

